

事例③

通級指導教室における障がい特性に応じた自立活動の工夫

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 周りの状況や相手の気持ちを理解して行動することが難しい生徒にどう指導したよいか分からない。

① 自立活動の時間における指導

◆例えば、「自立活動」で、こんなことからはじめてみましょう。

- ☐ 自立活動「人間関係の形成」
- ☐ 中学校
- ☐ 通級指導教室

ファーストステップ！

指導の目標

- ・他者との適切な関わり方を身に付けることができる。

ファーストステップ①

- ・教師が、話したい気持ちを満たすことができるように生徒の話を傾聴しながら、生徒が、学習の見通しをもつことができるようにしましょう。

事例2、自閉症スペクトラム、ADHDの児童がある生徒への指導

指導目標

- ・気持ちを安定させて過ごすことができる。
- ・他者との適切な関わり方を身に付けることができる。

具体的な指導

(個別指導) ・共感的受容的な関わりを通して、不安や緊張を軽減させる。

・SSTを通して感情をコントロールする力を高めたり適切な行動を増やす。

(集団指導) ・グループ活動で適切な関わり方を身に付ける。

	学習活動	手立て／留意点
導入	○ 本時の流れ ○ 自由会話（個別指導）	※話題や話し方を評価し、他者との話題を自ら選択できるように促す。
展開	○ 本時の学習課題 ○ 他校生徒との交流（集団指導） ・自分がやりたいゲームを伝える。 ・全員が楽しめるゲームを決める。 ・ゲームや会話を楽しむ。	※聞き手に興味をもってもらえる話題や話し方にするとよいことを伝える。
終末	○ うまくいったことなどを発表 ○ 振り返り	

ファーストステップ②

- ・グループ活動を通して、生徒が集団の雰囲気に合わせてたり、集団に参加するための手順や決まりを理解したりして、集団での活動などに積極的に参加できるようにしましょう。

ファーストステップ③

- ・生徒同士で、うまくできたことなどを発表し合い、感想を共有するとともに、本時で学んだことが「(在籍する)教室でもできるかも！がんばれるかも！」という気持ちになるよう言葉がけを工夫しましょう。

